

第 9 回
焼津未来創出プロジェクト創業支援制度構築事業
プロジェクトチーム会議議事録

【日 時】 平成 30 年 6 月 27 日（水） 15 時 30 分～17 時 00 分

【場 所】 焼津市役所会議室棟 102 号室

【出席者】 プロジェクトチーム構成員 9 名
焼津商工会議所 専務理事 岩谷 壽夫
焼津信用金庫 地域貢献部長 稲森 智志
静岡銀行 焼津支店長 丸山 雄宏
焼津市 政策企画課 課長 増井 太郎
焼津市 商業・産業政策課 課長 大石 一宏
焼津市 商業・産業政策課 企業立地支援担当 係長 小長谷 邦博
焼津市 政策企画課 地方創生室 室長 福里 紳太郎
株式会社サンロフト 社長 松田 敏孝
株式会社船井総合研究所 総務省認定地域再生 枋尾 圭亮
事務局 5 名
焼津市役所 政策企画課 政策企画担当 増田 幸一郎 杉本 奈緒美
株式会社サンロフト 山田 尚子、鈴木 あゆみ、服部 由実 ※敬称略

【欠席者】 プロジェクトチーム構成員 2 名
大井川商工会 経営指導員 大石 祐輝
静岡福祉大学 事務部長 石野 眞澄 ※敬称略

【議事録】

- 1 あいさつ（焼津市政策企画課長）
- 2 委員紹介
- 3 平成 30 年度実施事業について

8 つの提案内容をもとに本年度取り組む事業案を説明。

【意見交換】

3-1 「市長と意欲的な経済人が産業振興について語り合う場の設置」について

- （委 員） やいづビジネスミーティングの 5 団体はどのように集めるか。公募の選定基準はどのようにするか。
- （福里室長） 現時点での候補者はいない。選定基準とあわせて次回会議で検討する必要がある。
- （委 員） プロジェクト会議の場で意見交換をしながら候補を検討してはどうか。

- (委員) やいづビジネスミーティングから発展して、焼津というブランドを首都圏にアピールできないか。同時に、発表者のニーズや課題の実態を掴むことが重要ではないか。
- (委員) プレゼンする側としては、ビジネスなどにつながるものを求めている。ビジネスマッチング機会の創出を強化することが地域や参加者にとってメリットにつながる。
- (委員) 焼津未来創出プロジェクトには、「創業や新規事業を生むための交流機会創出」「市全体の産業活性化の機運醸成」「支援機関の連携強化」というテーマがある。例えば、「IT で生産性革命をどうしていくか」といったテーマ出しをし、テーマにあった事業者を探すのはどうか。
- (委員) 例えば、若い世代を対象とした「育成枠」のような枠組みを設けるのはどうか。市長に直接プレゼンすることができる機会をインセンティブと考える人たちが集まるといい。
- (委員) 「展望枠」「育成枠」「連携枠」というような明確な枠組みがあると良い。公募の際も選定しやすくなるのではないか。
- (委員) 中小企業にとっては、IT を経営と結び付ける IT コーディネーターの存在が課題となっている。IT に関する製品がどのように役立つかをプレゼンするという切り口も考えられる。行政の展望としても申請書類等の電子化などにつながるのではないか。
- (委員) 「展望枠」としては合う。行政だけでなく、民間にも通ずる部分がある。
- (委員) 行政業務を効率化し、クリエイティブな仕事やフェイストゥフェイスの仕事に専念することで、市民の満足度向上につながるのではないかと思う。

3-2 「既存のカフェや飲食店等を活用したビジネスの語り場の設置」について

- (委員) 目標数値は 40 名程度とあるが、平成 29 年度の実績はどのくらいか。
- (増井課長) 4 回開催で合計 46 名が参加している。

3-3 「各支援機関の情報を一元管理・共有する仕組みの構築」について

- (委員) 八尾市で導入されている創業希望者面接カードは経産省から配布されているフォーマットであり、焼津市でも導入できる条件は整っている。各支援機関の許可が下りたタイミングで導入してはどうか。
- (委員) 問題ないかと思う。
- (委員) 本店に確認する必要がある。
- (委員) 例えば事業承継など、創業以外に関する情報も併せて管理することはできないか。

- (委員) 事業承継は含まれていないが、将来的には事業承継問題についても共有できたらいい。まず創業関連の情報共有から始めてみてはどうか。
- (委員) 目的や個人情報の取扱を明確にしなくてはならない。統一のフォーマットで連携して活用するというコンセンサスを得る必要がある。
- (委員) 次回の8月のプロジェクト会議でこうした共有様式使用に関する依頼の文書案を検討し、各支援機関内で確認を取ることができるように進めていくのはどうか。
- (委員) 政策金融公庫にも協力いただけることが望ましい。

3-4「ビジネス活性化に直結する IT インフラの整備、IT 活用教育、情報セキュリティ・モラル教育の実施」について

- (委員) 企業内 IT インフラ整備助成事業（資料 p13）は、かなり先進的なシステムのような印象を受ける。補助金の支援額を下げるなど、焼津の事業者が広く活用しやすい補助金があってもいいのではないか。
- (小長谷係長) 来年度の補助金の予算取りは非常に難しいと予想される。少額で複数の事業者への交付とした場合、補助金申請数も増えると考えられる。その場合の選考基準も検討しなくてはならない。
- (委員) 1 事業者あたり最大 50 万円（事業費の 1/2 補助）という補助金は一般的ではないか。
- (増井課長) 国の補助もあるため、市が最大 50 万を負担するわけではない。
- (小長谷係長) 国の IT 補助金は企業が国に直接申請する。焼津市内の企業であれば優先採択の対象となっている。側面的な支援は市として既に動いている。ただ、生産性が向上するものであるならば、市単独で幅広く補助金を交付してはどうかと考えている。
- (委員) 来年度に予算を確保するためには、いつまでに骨子を決めなくては行けないか。
- (小長谷係長) 次の会議までに決めなくてはならない。
- (委員) 全体で 200 万円の予算を想定するとしたら、対象事業を絞る必要がある。
- (委員) 資料（p13）にある、企業内 Wifi 整備による会議時間の削減やテレビ会議システム導入は比較的導入しやすく、効果が見えやすい。
- (委員) 企業だけでなく、事業承継やインバウンドを目的に交付できるといい。将来的な交流人口拡大につながれば良い。

- (小長谷係長) 基本設備投資をすれば生産性は向上する。
- (委員) 市として観光事業に力を入れているのであれば、飲食店を中心に Wifi を完備し、市民だけでなく観光客にもメリットを与えるのはどうか。
- (委員) Wifi だけでは差別化がもうできない。中国人向けにアリペイを使えるようにするという信用金庫もある。
- (委員) 外国人漁業者が Wifi スポットを訪れている。外国人漁業者向けの Wifi スポットの整備やキャッシュレスに対応していく必要がある。

3-5 「創業希望者、新規事業を検討する企業のためのコワーキングスペースの提供」について

- (増井課長) 川根本町との連携事業において、古民家等を活用した地域活性化事業のなかで、平成 30 年度は事業主体を決定する予定だが、その中にコワーキングスペースを作るかを検討している。
- (委員) 浜通り活性化フォーラムでも古民家を活用するかどうかを議論していた。フォーラム内でも共有していく必要があるのではないかと。
- (事務局) 浜通り活性化フォーラムでまとめた理念をふまえて活用を検討していくなかで、一部分をコワーキングスペースのようなものを整備し、テレワークをする方が集まれるような拠点としての活用もできればという構想はある。具体的になってきた時点で浜通り活性化フォーラムでも情報共有していきながら進めていきたいと考えている。
- (増井課長) その他、コワーキングスペースとして、適したところがあれば活用していきたい。

3-6 「創業・就業・新規事業支援のための拠点（ワンストップフロア）の開設」について

- (委員) 八尾商工会議所のフロアをイメージとしているのか。
- (委員) 視察を実施するのであれば 8 月頃までには決めなくてはならない。視察を実施するかどうかを含め、先進事例の候補を詰めていく必要がある。

3-7 「地元企業、創業者、創業希望者、UI ターン希望者、学生が交流するマッチングイベント開催」について

- (委員) 目標参加者数は 100 名なのか。
- (事務局) 今年度は静岡福祉大学とも連携して実施するため、静岡福祉大学と協議しながら集客していく。
- (委員) UI ターン者を集めることを目標としている。首都圏の学生の集客も意識しなくてはならない。

- (事務局) 静岡福祉大学も市内企業への就職率が低いことが課題であると聞いている。当事業は、静岡福祉大学の学生もターゲットになると考えている。
- (大石課長) 市内就職が目的だが、参加者のうち何割が市内就職につながったかという追跡調査はしているのか。追跡調査まで実施することが望ましい。
- (事務局) アンケート調査を行い、参加者が興味のある企業を調査し、アフターフォローまでは実施したが、就職したところまでの追跡調査まで出来ていない。
- (委員) 今年度はマッチングを図るようなメールを自動で送るなど、追跡調査の仕組化するところまで検討したい。
- (委員) 前は転職希望者も多かったので、「新卒のUIターン」という目的に合わせてアプローチの方法を変える必要があるかもしれない。
- (委員) 企業のプレゼンは魅力的だったため、仕組を整えることができれば、マッチングも可能だと考える。
- (委員) 静岡福祉大学の学生も参加されるのであれば、企業の業種も幅広くする必要がある。
- (委員) 学生の集客については、人材採用会社などに依頼するのはどうか。首都圏の学生を集客できる仕組がほしい。
- (委員) 時期的には1月が適しているのか。大学4年生の7月頃が、時期的に学生たちは焦っている、または地元へのUIターンに意識が向いている時期なのではないか。
- (増井課長) 企業の協力を得られるのであれば、一回に限らず何度か開催できると良い。
- (委員) 1月は成人式に絡めて考えると対象は大学2年生になる。3年生も参加すると思うが、2年生のうちから囲い込んで、地方という選択肢を意識させることや、追跡調査ができるような仕組を整えることが大事ではないか。
- (委員) 3連休のため、帰省しやすい時期ではある。
- (増井課長) 時期もあわせて、引き続き検討していく。

3-8「焼津で働く・働きたい人向けの産業メディア（新聞）の発行」について

- (増井課長) やいづライフの周知を目的に、気軽に読めるような紙媒体をつくり、市内飲食店等に設置いただき、情報発信につなげていく。
- (委員) タイミングとしてはどの程度、発行するか。年1回発行だと忘れられてしまう。また、編集チームをどのように束ねるか。Webサイトよりも紙媒体

は地域に広める上で有効な要素がある。そうしたところから気運の醸成につながったらいい。

(事務局) 制作する場合には「やいづライフ」に関わっている地域おこし協力隊や焼津まちかどリポーターを想定している。

(増井課長) 広告費を集められるような媒体になればいい。検討事項も含めて、ご意見をいただきたい。

4 その他

(事務局) 会議日程のうち、12月12日に予定していた3回目の会議については、2月5日に変更させていただく。

以上